

松江堀川のカメ調査からみえてきたこと？

山口勝秀（ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト）

松江市内を流れる堀川は、宍道湖から導水しているため、ヤマトシジミやスズキのほか、エビ類、ウナギなど汽水域の多種多様な生物が生息している。

こうした環境を保全し、観光スポットとして魅力アップを図ることを目的として2015年に『汽水の松江堀川』魅力アップ協議会が設立された。2017年に引き続き、外来生物防除に関する調査を行ったので報告する。2018年度は、昨年度にアカミミガメが多く捕獲された3地点（城山内堀川、中川、比津川）に加え、新たに4地点（田町川、北田川-普門院付近、北田川-済橋付近、城山西堀川）を追加した。

新たな調査地点でも、外来種のアカミミガメが捕獲され、広範囲に分布していることが確認された。特に田町川では、アカミミガメの捕獲割合が高い結果となった。一方、城山西堀川では、アカミミガメは、ほとんど捕獲されず、クサガメの捕獲割合が高い結果となり、前年同様、アカミミガメの分布には偏りがみられた。2017年度からの3調査地点のうち、城山内堀川と比津川では、アカミミガメの捕獲数や捕獲割合に変化は少なく、中川においては、クサガメの再捕個体数が多く、アカミミガメの捕獲数および捕獲割合が大幅に減少している。また、これら3地点ともに捕獲されたアカミミガメの甲長分布をみたところ、昨年と比べ、小型個体が多く捕獲されていた。他県の事例によるとアカミミガメの防除が進むと小型個体の割合が増えるという報告があることから、2年間の調査である程度防除の効果がみられていると思われる。

また、捕獲したクサガメには、マーキングを行い放流し、再捕獲したものについて、移動範囲と移動距離を調べた。その結果、51個体の再捕個体を確認し、最も移動距離が長いものでは、4日間で直線距離にして800m移動していた。なお、ほとんどの個体が、中川を中心に移動していた。

アカミミガメの繁殖状況を調べるために産卵場をみたところ、多くの産卵痕が確認されたが、多くが掘り返されていた。掘り返された原因を調査するため、自動監視カメラを設置したところ、カラスをはじめ、ノネコやキツネ、アナグマなどの多くの動物が確認されたことから、これらの動物によって卵が捕食されている可能性が高いと思われた。



人工堰で日光浴するアカミミガメ